

注意点1

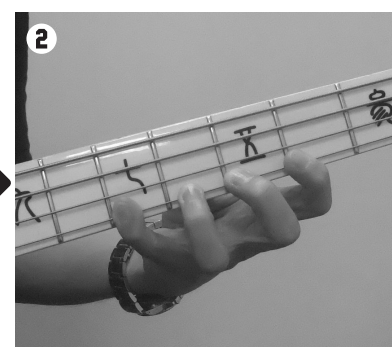
左手

**左手の押弦力も必要となる
ライト・ハンド奏法**

複数の弦を使用して“響き”を聴かせるタッピングに対して、ライト・ハンド奏法は1本弦上でフレーズを展開するため“流れ”を聴かせるテクニックとなる。ライト・ハンド奏法は、その名のとおり右手で弦を叩いて、そこからプリングで左手の運指に繋げていくことが多い。ギターに比べてフレットの間隔が広いベースでライト・ハンド奏法を演奏するためには、左手人差し指・中指・薬指・小指を均等に動かせることと、ワイド・ストレッチに正確に対応できること(写真①&②)の2点が重要になる。ベーシックな基礎トレーニングを積み重ねることで、フィンガリング力が確実に鍛えられるので、じっくり練習を進めていこう。



① メイン・フレーズ1小節目1拍目の左手。1弦4fを人差し指、5fを中指、7fを小指で押さえる。



② 通常のストレッチと同じく、7fを小指で押さえた時に、4fの人差し指と5fの中指が離弦しないように注意!

注意点2

理論

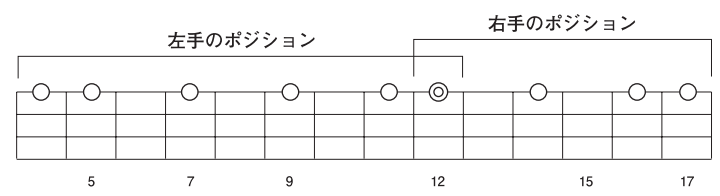
**Gメジャー・スケールの
1本弦ポジションを覚えよう**

メイン・フレーズは、1小節目1&2拍目がベーシック・パターンとなる。フレーズの流れは、1拍目が12フレットを右手でタッピング→プリングで4フレット(左手人差し指)→ハンマリングで5フレット(中指)→ハンマリングで7フレット(小指)。2拍目が12フレットを右手でタッピング→プリングで7フレット(小指)→プリングで5フレット(中指)→プリングで4フレット(小指)となる。まずは、この1小節目1&2拍目の動きを両手にしっかり叩き返そう。2小節目以降は細かくポジション・チェンジしていくので、事前にGメジャー・スケール【註】による1本弦ポジションをしっかりと頭に入れておくことが大切だ(図1)。

図1 メイン・フレーズのポジション

◎トニック(G音)

・Gメジャー・スケール



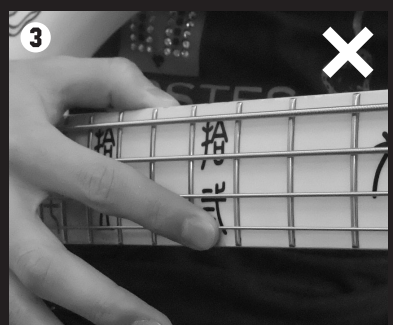
左手は3音で1セットになることを理解しておく覚えやすい。

～コラム28～

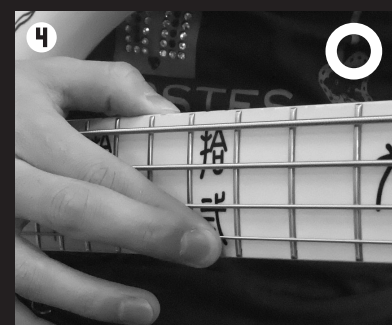
将軍の戯れ言

タッピングは、出音が小さくなりやすいので、指使いに工夫が必要だ。メイン・フレーズの譜面を見ると、右手の指定は人差し指だが、人差し指1本ではなく、その上から中指も添えて2本指で弦を叩くと、より力強いサウンドを生み出せるだろう(写真③&④)。この辺りの発想は、ただ漠然と譜面を目で追って練習しているだけでは決して思いつかないだろう。常に“より質の高いプレイを実現するためには、どうすればよいのか?”ということを意識しておくことが大切だ。フレーズに合わせて、臨機応変に指使いを変えていくようにしてもらいたい。

**タッピング音の音量をかせぐ
効果的な指使い法**



人差し指だけではタッピング音が小さくなりやすい。



人差し指に中指を添えることで、弦をさらに力強く叩ける。

【メジャー・スケール】 ルート、2nd、3rd、4th、5th、6th、7thの7音で構成された音階(ルート=Cの場合、C音・D音・E音・F音・G音・A音・B音の7音)。ジャズでよく使われるモードの基礎となる。